

00052 JP

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 220 電極洗浄液  
製品コード : 3014028653

供給者の会社名称、住所及び電話番号 : 株式会社 堀場アドバンステクノ  
〒601-8551  
京都市南区吉祥院宮の東町2番地  
電話番号: 075-321-7184

### 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	
電極洗浄	
使用上の制限	理由
情報なし。	

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 急性毒性(経口) - 区分4  
皮膚刺激性 - 区分2  
眼刺激性 - 区分2A  
呼吸器感作性 - 区分1  
皮膚感作性 - 区分1  
発がん性 - 区分2  
生殖毒性 - 区分2  
特定標的臓器毒性(単回ばく露)  
- 区分2  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分1  
水生環境有害性 短期(急性) - 区分3  
水生環境有害性 長期(慢性) - 区分3

### GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 飲み込むと有害  
皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
強い眼刺激  
吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ  
発がんのおそれの疑い  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
臓器の障害のおそれ(呼吸器系)  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。(肝臓、呼吸器系、歯、甲状腺)  
長期継続的影響によって水生生物に有害

### 注意書き

概要

: 使用前にラベルをよく読むこと。子供の手の届かないところに置くこと。医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルをもっていくこと。

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。保護手袋、保護衣及び保護眼鏡又は保護面を着用すること。呼吸用保護具を着用すること。環境への放出を避けること。蒸気を吸入しないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく洗うこと。

## 2. 危険有害性の要約

- 応急措置** : ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察又は手当てを受けること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察又は手当てを受けること。
- 保管** : 施設して保管すること。涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 廃棄** : 内容物及び容器を市町村条例、都道府県条例、国内法令及び国際条約の規定に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名	含有量(%)	CAS登録番号	官報公示整理番号	
			化審法	労働安全衛生法
チオ尿素 塩化水素	10 1	62-56-6 7647-01-0	2-1733 1-215	情報なし。 情報なし。

## 4. 応急措置

- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。
- 皮膚に付着した場合** : 多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも15分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 眼に入った場合** : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも15分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。
- 飲み込んだ場合** : 水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

#### 予想される急性健康影響

- 吸入した場合** : 吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
- 皮膚に付着した場合** : 皮膚に接触すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。皮膚刺激 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- 眼に入った場合** : 強い眼刺激
- 飲み込んだ場合** : 飲み込むと有害 飲み込むと、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。

#### 過剰にばく露した場合の徴候症状

- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる：  
喘鳴および呼吸困難  
喘息  
胎児体重の減少  
子宮内胎児死亡の増加  
骨格の変形

## 4. 応急措置

皮膚に付着した場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる: 刺激 充血 胎児体重の減少 子宮内胎児死亡の増加 骨格の変形
眼に入った場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる: 痛み及び刺激 流涙 充血
飲み込んだ場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる: 胎児体重の減少 子宮内胎児死亡の増加 骨格の変形
応急処置をする者の保護	: 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。
医師に対する特別な注意事項	: 火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 火災に応じた消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	: 認知済みのものは無し。
特有の危険有害性	: 火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり容器が破裂することがある。本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
特有の消火方法	: 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。
消火活動を行う者の特別な保護 具及び予防措置	: 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

非緊急時対応要員について	: 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。蒸気や噴霧の吸入を避ける。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
緊急時対応要員について	: 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報を注意しなければならない。「非緊急時対応要員について」の情報も参照。
環境に対する注意事項	: 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
少量に流出した場合	: 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。水溶性なら水で希釈してぬぐい取る。あるいは、または水に不溶性の場合、乾燥した不活性吸収剤に吸着させ、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
大量に流出した場合	: 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。放出現場には風上から近づくこと。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。漏出物を廃水処理施設に洗い流すか、または以下の指示に従う。本製品がこぼれたら、砂、土、バーミキュライト、珪藻土等の非可燃性の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、容器に集め、現地法に基づき廃棄する(セクション13を参照)。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。漏出物を吸い取った吸収剤は、漏出した製品と同じ危険性を引き起こすことがある。注意: 接触時の情報はセクション4を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 安全取扱注意事項

- 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。皮膚感作障害あるいは喘息、アレルギー、慢性または頻発呼吸器疾患の病歴を持つ者を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。暴露を避けること—使用前に取扱説明書入手すること。妊娠中は暴露を避ける。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。環境への放出を避けること。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。容器が空でも製品が残存し危険有害性があることがある。容器を再利用してはならない。

#### 衛生対策

- 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

### 保管

#### 安全な保管条件

- 現地の法規制に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。施錠して保管すること。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用前にセクション10を参照のこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

- 換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。

### ばく露限界

化学名又は一般名	ばく露限界値
塩酸	日本産業衛生学会(日本、5/2016)。 OEL-C: 2 ppm OEL-C: 3 mg/m <sup>3</sup>

### 保護具

#### 呼吸用保護具

- 危険性とばく露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。

#### 手の保護具

- リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。

#### 眼、顔面の保護具

- リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 耐化学物質飛沫よけゴーグル。

#### 皮膚及び身体の保護具

- 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。  
この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

## 9. 物理的及び化学的性質

特に明記されていない限り、性質の測定条件はすべて、標準の温度と圧力である。

### 外観

#### 物理状態

- 液体

#### 色

- 無色。

#### 臭い

- 特異臭。

#### 融点／凝固点

- 情報なし。

#### 沸点又は初留点及び沸点範囲

- 情報なし。

#### 可燃性

- 情報なし。



## 9. 物理的及び化学的性質

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：情報なし。

軟化点：情報なし。

引火点：情報なし。

自然発火点

化学名又は一般名	℃	℉	方法
チオ尿素	>240	>464	

分解温度：情報なし。

pH：情報なし。

粘度：情報なし。

溶解度：情報なし。

n-オクタノール／水分配係数：データなし

蒸気圧

化学名又は一般名	20℃の蒸気圧			50℃の蒸気圧		
	mm Hg	kPa	方法	mm Hg	kPa	方法
水	17.5	2.3				

相対ガス密度：情報なし。

相対密度：情報なし。

粒子特性

中央粒径値：該当しない

## 10. 安定性及び反応性

反応性：この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。

化学的安定性：通常の条件では安定

危険有害反応可能性：通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。

避けるべき条件：高温、加熱、熱源、裸火

混触危険物質：特にデータは無い。

危険有害な分解生成物：アンモニア、一酸化炭素、ホルムアルデヒド、窒素酸化物、硫黄酸化物類

## 11. 有害性情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	ばく露時間
チオ尿素	LD50 経口	ラット	125 mg/kg	－

急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (気体) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (粉じん／ミスト) (mg/l)
220 電極洗浄液	366.7	N/A	N/A	N/A	N/A
チオ尿素	500	N/A	N/A	N/A	N/A
塩酸	100	N/A	700	N/A	0.05

刺激性／腐食性

## 11. 有害性情報

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	ばく露時間	観察
塩酸	眼 - 軽度の刺激	ウサギ	-	0.5 分 5 milligrams 24 時間 4 Percent	-
	皮膚 - 軽度の刺激	ヒト	-		-

## 呼吸器感作/皮膚感作

情報なし。

## 生殖細胞変異原性

情報なし。

## 発がん性

情報なし。

## 生殖毒性

情報なし。

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

製品 / 成分の名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
チオ尿素 塩酸	区分3 区分1	該当しない 未確定	気道刺激性 呼吸器系

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

製品 / 成分の名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
チオ尿素 塩酸	区分1 区分1	未確定 未確定	甲状腺 呼吸器系 および 歯

## 環境有害性

情報なし。

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	ばく露時間
チオ尿素	急性 EC50 4800 µg/l 真水	藻類 - Scenedesmus abundans	96 時間
	急性 LC50 9000 µg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna	48 時間
	急性 LC50 >100 mg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas	96 時間
塩酸	急性 LC50 240000 µg/l 海水	甲殻類 - Carcinus maenas - 成体	48 時間
	急性 LC50 282 ppm 真水	魚類 - Gambusia affinis - 成体	96 時間

## 残留性・分解性

情報なし。

## 生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP <sub>ow</sub>	BCF	可能性
チオ尿素	-1.08	2	低
塩酸	0.25	-	低

## 土壌中の移動性

: 情報なし。

## オゾン層への有害性

: 該当しない

## 他の有害影響




: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

## 13. 廃棄上の注意

### 廃棄方法

- ： 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

## 14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
UN番号	UN3082	UN3082	UN3082
品名	環境有害物質(液体)他の危険性を有しないもの。(チオ尿素)	環境有害物質(液体)他の危険性を有しないもの。(チオ尿素)	環境有害物質(液体)他の危険性を有しないもの。(チオ尿素)
国連分類 クラス	9 	9 	9 
容器等級	III	III	III
環境有害性	はい。	はい。	はい。

### 追加情報

- UN : 本製品は5 L以下の容量、又は5 kg以下の重量で輸送される場合に、規制下で危険物と見なされないが、梱包が一般規定4.1.1.1、4.1.1.2および4.1.1.4～4.1.1.8を満たす場合に限る。
- IMDG : 本製品は5 L以下の容量、又は5 kg以下の重量で輸送される場合に、規制下で危険物と見なされないが、梱包が一般規定4.1.1.1、4.1.1.2および4.1.1.4～4.1.1.8を満たす場合に限る。
- IATA : 本製品は5 L以下の容量、又は5 kg以下の重量で輸送される場合に、規制下で危険物と見なされないが、梱包が一般規定5.0.2.4.1、5.0.2.6.1.1および5.0.2.8を満たす場合に限る。

- 使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

- IMO機器によるばら積み運搬 : 情報なし。

## 15. 適用法令

### 消防法

該当しない

### 労働安全衛生法

#### 名称等を表示すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	含有量(%)	状況	整理番号
チオ尿素	10	該当	340
塩化水素	1	該当	98

#### 名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	含有量(%)	状況	整理番号
チオ尿素	10	該当	340
塩化水素	1	該当	98

- 腐食性液体 : 該当

### 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)

15. 適用法令

化学名又は一般名	含有量(%)	状況	整理番号
チオ尿素	10	優先評価化学物質	40

毒物及び劇物取締法

該当しない

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR) – 2023年3月まで

化学名又は一般名	種別	管理番号
チオ尿素	第一種	245

化学物質排出把握管理促進法 – 2023年4月から

化学名又は一般名	種別	管理番号
チオ尿素	第一種	245

- 日本産業衛生学会 発がん性物質 : 第2群B
- 大気汚染防止法  
水質汚濁防止法 : 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質 (中環審第9次答申(別表1)の115 ;チオ尿素)、特定物質(政令第10条第9号; 塩化水素)  
: 指定物質 (政令第3条の3第5号 ; 塩化水素)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Z類物質 (施行令別表第1; 塩酸)
- 船舶安全法 : 有害性物質 (危規則第3条危険物告示別表第1)
- 航空法 : その他の有害物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
- 輸出貿易管理令 : 別表第1の16項(キャッチオール規制)  
HSコード(輸出統計品目番号、2014年4月版)2930. 90-900  
「有機硫黄化合物-その他のもの-2その他のもの」

16. その他の情報

- 履歴
- 発行日/改訂版の日付 : 2023年11月24日
- 前作成日 : 2022年7月8日
- 略語の解説 : ATE = 急性毒性推定値  
BCF = 生物濃縮係数  
GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム  
IATA = 国際航空輸送協会  
IBC = 中型運搬容器  
IMDG = 国際海上危険物  
LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数  
MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。 (“Marpol” = 海洋汚染)  
N/A = データなし  
SGG = 隔離グループ  
UN= 国際連合

分類を行うために使用する手順

分類	由来
急性毒性 (経口) – 区分4 皮膚刺激性 – 区分2 眼刺激性 – 区分2A 呼吸器感作性 – 区分1 皮膚感作性 – 区分1 発がん性 – 区分2 生殖毒性 – 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) – 区分2 特定標的臓器毒性(反復ばく露) – 区分1 水生環境有害性 短期(急性) – 区分3	算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法



## 16. その他の情報

水生環境有害性 長期(慢性) - 区分3

算出方法

**参照** : JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)  
情報なし。

前バージョンから変更された情報を指摘する。

### 注意事項

本データシートは化学品的を安全に取り扱うための情報を記載しています。新たな情報を入手した場合は、データシートの内容を予告なく追加・変更することがあります。注意事項は通常取り扱いについて記載していますので、特殊な取り扱いをする場合は、ご使用者の責任において、その用途・用法に適した安全対策を実施してください。化学品の危険有害性情報を記載しておりますが、参考情報であり、いかなる保証をするものではありません。